

No	作品名	出展者名	作品についての説明
34	チュニック	菅原マユミ (群馬県)	カスパリー編みです。インナーを変えれば、四季を問わずにブラウスやセーターの上に軽やかに華やかに着れるように編みました。シルク1本と細い金糸を入れました。
35	カスパリー編の ショール	鈴木志津子 (群馬県)	シルクの柔らかさを生かせるようにカスパリー編みで編んでみました。光沢があるのでドレスアップ時に使いたいと思います。
36	透かし編みのサン プラーショール	渡辺友美 (青森県)	これまでの編み物人生(40年くらい?)で、気にはなっていたものの、なかなか手を出さずにいた透かし編み。純白のシルク糸を手にして、決意しました。ふわふわの雪をまとったようなイメージ、「アナと雪の女王」のエルサが巻いたら可愛いだろうなと思いながら編みました。シルク100%という今まで経験のない糸に悪戦苦闘しながら楽しく編めました。一生の宝物になりました。
37	連続モチーフの つけ衿	深町真由美 (群馬県)	子供の頃、養蚕をしていた祖母の近くで、おこあげなどを手伝い、お蚕さまを可愛く思って触れていた思い出がありますので、新聞でこの企画を知った時、私も参加してみたいと思い、チャレンジすることにしました。完成した座繰り糸を見ることも、手に取ることも初めてでした。レース編みの本から、連続モチーフのつけ衿の編み図を見つけ、座繰り糸に慣れるため小さなつけ衿から編み始め、一連モチーフを編み上げてから、二連のモチーフに取り組み、出来上がりました。この企画展に心動かされ、可愛らしい華やかな連続モチーフのつけ衿ができたことを嬉しく思います。
39	衿型ケープ	KULURKULUR Knit (クルール ニット) (東京都)	シンプルなドレスに合わせて使用するケープをイメージして作りました。レース編みシルクで華やかな印象の着こなしに、衿ぐりを紐でギャザーを寄せて結ぶ形で、衿ぐりの大きさは自由に調節できます。大きな衿に見えるケープです。首まわりをぴったりタイトに結んでスタンドカラー風に、ゆったりと広げて結べば腕までかかるエレガントなケープに、ギャザーを寄せずにストレートにして、ストールのように首まわりに巻くこともでき使い方もいろいろと楽しめます。
40	シルクのケア帽子	Luna(ルナ) (東京都)	私は2011年に子宮体がんを経験しており、約1年間治療していました。抗がん剤治療も受け、髪もすべて脱毛してしまい、ウィッグやケア帽子を使っていました。治療していたがん研有明病院には『帽子クラブ』というボランティア組織があり、先生も元患者さんで、とても親切に指導して下さいました。残念ながら先生は昨年、がんが再発してしまい他界されてしまいましたが、教わった帽子は自分で作ることができます。脱毛時に使う帽子なので、100%シルク糸、是非編んでみたい!と思って応募させていただいた次第です。自分が一番よく使っていたデザインです。3本取りで編みました。
41	ボレロ風 カーディガン	赤羽照子 (群馬県)	初めてシルク糸を手にした時、手触り・色・シルク感に感動致しました。模様編の本から何種類かゲージ取りのために編みました。簡単で気を遣いながら編まないの良い作品にならない。鎖編みを使い、デザインは簡単にして、縁編みで引き立てる作品にしたいと思い編みました。中長編み、長編みのない模様のために前身頃の丸みを出すのに工夫し、縁編み模様を目数を増目して丸みを出しました。いつの日か孫に着てほしいと願い、嬉しい日々を想いながら編み楽しみました。
42	ベスト	吉永咲子 (群馬県)	シルクのワンピースの上に合わせるシルクの製品をと思っていたところにこのシルクの糸を知り、編み上げてみました。シンプルなデザインに着やすいのにと始めていたのですが、糸が指先に引っかかったりで扱いには気を遣いました。ワンピースの上に合わせてみましたら、とてもステキでした。やはりシルクはいいですね。
43	絹を装う	飯野智子 (群馬県)	衿元のおしゃれは絹で・・・絹の光沢、肌にやさしく、そして天然素材。手編機で編みました。小花模様を全面に配し、両端は裏目を利用、初めと終わりはかぎ針で仕上げ。軽い小さなおしゃれアイテムのひとつとしておすすめします。
44	花まつり	佐俣由美子 (群馬県)	シルク糸は年を重ねると色味が変わるので、モチーフの外回りにゴールド色の糸を加え、中心はシルクのみで編み上げました。
45	カジュアルシルク スカーフ	桂川ちはる (群馬県)	上品な光沢と肌ざわりの良いシルクを毎日のカジュアルな装いに合わせたいと思い、長方形のスカーフに仕立てました。小さなリングを連ねて可愛らしさを出し、両端に貝ボタンをつけ下がりやすいようにしました。季節を問わず、一年中カツヤクできるはずです。
46	フランドルショール	田中雅美 (埼玉県)	富岡製糸場の建物は、木の骨組みとレンガの壁で造る「木骨煉瓦造り」という建築方法で建てられています。壁面を成しているレンガは、フランス北部のフランドル地方で用いられた「フランドル積み」という工法で積まれています。レンガが縦向きと横向きに交互に並べられて美しい模様となっているフランドル積みから、ショールをデザインしました。